

## あいちサーキュラーエコノミー推進プランに基づく施策の進捗状況

項目	取組内容	2025年度実績（2026年1月末現在）	評価指標
1 サーキュラーエコノミー推進モデルの展開	<p><b>(1) プロジェクトチームによるモデルの具体化</b></p> <p>サーキュラーエコノミー型の循環ビジネスへの転換を牽引する役割を担うものとして創設した6つのモデルの具体化に向け、事業者、団体、NPO、有識者、行政等で構成するプロジェクトチームを設立するとともに、チーム内での合意を図りながら事業化検討などの取組を進める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【各推進モデル】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチック循環利用</li> <li>・繊維・衣類循環利用</li> <li>・食品循環利用</li> <li>・太陽光パネル循環利用</li> <li>・リペア・リビルド</li> <li>・未利用木材循環利用</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6つの推進モデルの具体化に向け、サーキュラーエコノミー推進プロジェクトチーム（PT）を設立し、チーム毎及びWG単位で会議を開催し、各推進モデルの事業化に向けた議論を進めた。（計15回開催）</li> <li>・参画事業者が、2026年1月末時点で69者（延べ87者）と、設立当初の56者（延べ72者）から13者（延べ16者）増加した。</li> <li>・プラスチック循環のチームにおいて、使用済みフィルムを回収・再生原料化・製品化し、循環利用するスキームを構築し、県内で展開した。（具体化1件）</li> <li>・バイオマスプラスチック循環のチームにおいて、五条川の桜の端材を活用した「バイオスマイボトル」を製品化し、岩倉市内での販売が開始した。（具体化1件）</li> </ul>	<p>プロジェクトチームによるモデルの具体化件数</p> <p style="text-align: center;"><b>6件/10年</b></p> <p style="text-align: center;">（累計※ 2件）</p>
	<p><b>(2) 事業者連携による取組への事業化支援</b></p> <p>バリューチェーンなど民間活力による連携した取組を促進するため、循環ビジネス創出コーディネーターによる事業化に向けた相談や連携先の仲介・あっせんを行うとともに、循環型社会形成推進事業費補助金（以下、循環補助金）による事業化検討や設備整備への支援・フォローアップを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間活力による連携した取組の支援、事業化や事業拡大に向けたビジネスパートナー・大学・研究機関の仲介、あっせんを行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（ ・ビジネスパートナーの仲介、紹介 33件（12月末現在）</li> <li>・大学・研究機関の仲介、あっせん 19件（12月末現在）</li> </ul> </li> <li>・循環補助金により、先導的・効果的な事業化検討、サーキュラーエコノミーに資する製造設備やリサイクル設備の整備に対する支援を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>事業化検討 7件（応募：10件）</li> <li>設備整備 4件（応募：8件）うちPT事業3件</li> </ul> </li> </ul>	<p>事業者連携によるサーキュラーエコノミーの事業化件数</p> <p style="text-align: center;"><b>30件/10年</b></p> <p style="text-align: center;">（累計※ 12件）</p>

項目	取組内容	2025年度実績(2026年1月末現在)	評価指標
2 循環ビジネスの振興支援	<p><b>(1) 循環ビジネスの発掘・創出・事業化支援</b></p> <p><b>ア あいち資源循環推進センターによる相談・技術指導</b></p> <p>循環ビジネス創出コーディネーターを配置し、事業化に向けた相談や技術指導に加え、サーキュラーエコノミー型ビジネスやリソーシング産業への転換を図る相談など、循環ビジネスの発掘・創出から事業化、事業継続、普及・展開までを総合的に支援する。</p>	<p>・相談・技術指導件数 377件(12月末現在)</p> <p>〔  ・循環ビジネスの技術開発の指導、経営相談  ・サーキュラーエコノミーや3Rの高度化に資する取組の支援  ・ビジネスパートナーの仲介、紹介  ・大学や研究機関の研究者の仲介、斡旋  ・循環補助金や愛知環境賞の申請に係る相談  〕</p>	<p>循環ビジネスに関する相談件数</p> <p>300件/年</p>
	<p><b>イ 循環補助金等による支援</b></p> <p>先導的・効果的な循環ビジネスの事業化の検討、エコデザインを施した製品製造設備やリサイクル設備等の整備(リサイクル、排出抑制、プラスチック関係設備整備)を実施する事業者に対して補助を行う。</p>	<p>・2025年7月4日に交付決定し、年度内に完了予定。</p> <p>① 事業化検討 7件(応募:10件)(再掲)  ② 設備整備 4件(応募:8件)(再掲)</p>	<p>①循環補助金活用による事業化可能性の検討件数 60件/10年 (累計*27件)</p> <p>②循環補助金活用による3Rの高度化につながる設備等の整備事業件数 60件/10年 (累計*41件)</p>
	<p><b>(2) 循環ビジネスの事業継続・普及展開支援</b></p> <p><b>ア 展示会を通じた循環ビジネスの普及展開支援</b></p> <p>優れた環境技術を有する県内企業が開発した3R製品や省エネルギー等の環境技術を紹介する場を提供し、サーキュラーエコノミー製品やサービス等の販路拡大を支援する。</p>  <p>メッセナゴヤ 2025</p>	<p>・「メッセナゴヤ 2025」において愛知県ブースを設置し県内企業に出展の機会を与え、サーキュラーエコノミーに資する製品やサービスなど先導的な取組の販路拡大を図った。</p> <p>・また、来場者向けにサーキュラーエコノミーについて紹介するコーナーを併設しサーキュラーエコノミー型ビジネスの普及を図った。</p> <p>【メッセナゴヤ 2025】</p> <p>【リアル開催】2025年11月5日～11月7日  【オンライン開催】2025年10月27日～11月28日  (県ブース出展者数:18者、商談数:136件)</p>	<p>展示会への出展による商談件数</p> <p>1,000件/10年 (累計*760件)</p>
<p><b>イ 愛知環境賞の表彰</b></p> <p>優れた技術・事業及び活動・教育の取組を表彰する「愛知環境賞」を実施するとともに、表彰式などを通じて優良事例を広く社会に紹介する。</p>  <p>2025 愛知環境賞表彰式</p>	<p>・サーキュラーエコノミーやカーボンニュートラルに関する取組など、資源循環や環境負荷低減を推進する先駆的な取組を表彰予定。</p> <p>【表彰式】2026年2月17日(表彰:14件、応募:37件)</p> <p>〔  金賞:東邦ガス㈱  都市ガスのカーボンニュートラル化に向けた国内初のe-メタン活用  他 銀賞1件、銅賞1件、中日新聞社賞1件、名古屋市長賞1件、優秀賞9件  〕</p>	<p>愛知環境賞による優秀事例の発信</p> <p>150件/10年 (累計*60件)</p>	

項目	取組内容	2025年度実績（2026年1月末現在）	評価指標
3 人材育成・情報発信	<p><b>(1) 人材育成</b></p> <p><b>ア あいち環境塾によるリーダー育成</b></p> <p>環境について様々な視点から多角的に学び、それらを統合する大きな発想を得る機会と、分野を越えた協働の可能性を発見する交流の場として「あいち環境塾」を実施し、持続可能な社会づくりに向け、地域や職場で活躍できる人材を育成する。</p> <p>また、「あいち環境塾」の卒塾生を中心に設立された「AKJ 環境総合研究所」との連携により、人材育成や活動の場を広げる。</p>  <p style="text-align: center;">あいち環境塾</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人 19 名 (19 名応募) が参加し、講師との意見交換やチームディスカッションなどのカリキュラムにより、持続可能な社会づくりのリーダーとなる人材の育成を図った。(19 名修了) (期間：2025 年 6 月 28 日～11 月 22 日 (計 12 日間))</li> <li>・卒塾生による地域課題の解決に向けた実践活動を支援した。 (茅場の再生・維持を通じた草原植生の回復と、地域の茅葺き文化の継承に向けた試み(第 16 期卒塾生))</li> </ul>	<p>あいち環境塾によるリーダー育成者数</p> <p style="text-align: right;">200 人/10 年 (累計* 84 人)</p>
	<p><b>イ 自治体向けのセミナー開催</b></p> <p>地域における循環ビジネスのこれまで以上の推進やサーキュラーエコノミーの普及のためには、社会全体の需要拡大や県民の新たな生活スタイルの受容等も必要であることから、自治体職員を対象にした循環ビジネスやサーキュラーエコノミーについてのセミナーや研修会等を開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年 4 月 25 日に市町村職員を対象とした研修会において、サーキュラーエコノミーをテーマとした講演を行った。</li> </ul>	
	<p><b>(2) 情報発信</b></p> <p><b>ア スタートアップブックによる普及啓発</b></p> <p>サーキュラーエコノミーの意義やサーキュラーエコノミー型ビジネスの導入方法及び ESG 経営について解説し、先進事例を紹介するスタートアップブックを作成し、サーキュラーエコノミー型ビジネスの普及を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業がサーキュラーエコノミーに取り組むメリットや 6 つの推進モデルに資する先進事例を記載したスタートアップブックを「メッセージナゴヤ」や「サーキュラーエコノミー型ビジネス創出研究会」等のイベントで配布した。</li> </ul>	
	<p><b>イ あいち資源循環ナビによる情報発信</b></p> <p>Web サイト「あいち資源循環ナビ」において、「あいち資源循環推進センター」が行う各種事業のほか、SDGs、サーキュラーエコノミーや 3 R、循環ビジネスに関する最新情報や ESG 投資を呼び込む事業者情報を積極的に発信する。</p> <p><b>ウ 展示コーナーによる情報発信</b></p> <p>県庁西庁舎 1 階に設けた展示コーナーにおいて、本県の各種施策の紹介や愛知環境賞の受賞事例など、循環ビジネスや資源循環に関する情報を来庁者に向け発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにおいて、最新の施策を発信するとともに、県内の先導的な循環ビジネスの取組事例を紹介した(新たに 6 社掲載、発信件数 19 件)</li> <li>・展示コーナー利用者推計数 325 人</li> </ul>	<p>あいち資源循環ナビによる持続可能な社会に資する情報の発信件数</p> <p style="text-align: right;">24 件/年</p>

項目	取組内容	2025年度実績（2026年1月末現在）	評価指標
4 多様な主体との連携	<p><b>（1）サーキュラーエコノミー型ビジネス創出研究会の開催</b></p> <p>「環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)」と協働・連携を図り「サーキュラーエコノミー型ビジネス創出研究会」を開催し、サーキュラーエコノミー型ビジネスへの転換に必要な施策や支援策、サーキュラーエコノミー型ビジネスが生み出す新たな価値について研究を進める。また、SDGs、ESG 金融など持続可能な社会に資するセミナー、優良事例見学会、循環ビジネス現地相談会を開催し、事業者の連携・交流を促進する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">セミナー（1月16日）                      見学会</p>	<p>・セミナーや見学会を計2回開催した。</p> <p><b>【セミナー】</b></p> <p>2026年1月16日</p> <p>・サーキュラーエコノミー型ビジネスの事例発表</p> <p>講演者：積水ハウス(株)                      村井 孝嗣 氏  (株)リコー                                      平井 政考 氏  光栄テクノシステム(株)                      浅野 正也 氏  埼玉県産業労働部産業創造化課              山川 忠彦 氏</p> <p><b>【優良事例見学会】</b></p> <p>2025年12月16日 参加人数：23名</p> <p>見学先：(株)タイボー  (株)艶金</p>	<p>サーキュラーエコノミー型ビジネス研究会によるセミナー等の開催件数</p> <p style="text-align: right;">3回/年</p>
	<p><b>（2）事業者連携の促進</b></p> <p>事業化や事業拡大に最適なビジネスパートナーを循環ビジネス創出コーディネーターが紹介するとともに、「あいち資源循環ナビ」において、「循環資源事業者マッチングシステム」を運用することにより、異業種、他分野の産業をつなぐ事業者間のマッチングを支援する。</p> <p>また、県においてもサーキュラーエコノミーの推進に向け、事業者や経済団体、金融機関、大学、NPO、国、自治体など多様な主体との情報共有を図るとともに、県庁内部においてリサイクルビジネスやバイオマス活用など関係の深い局との連携を強化します。</p>	<p>・「循環資源事業者マッチングシステム」登録者数：188者  (2025年度新規登録者数：3者)</p> <p>・プロジェクトチームの活動が有意義となるよう、オブザーバーとして三井住友信託銀行(株)・中部経済産業局・中部地方環境事務所、アドバイザーとして大学教授等に参画いただいた。</p> <p>・事業者や自治体等との情報提供や連携</p> <p>瀬戸市：工業団地におけるプラスチック回収の実証実験  岩倉市：五条川の桜を活用した「バイオマスマイボトル」の製品化</p>	<p>あいち循環ナビ「循環資源事業者マッチングシステム」の登録者数</p> <p style="text-align: right;">300者</p>

※ 2022年3月から2026年1月末までの期間